



# Semiannual Report 2010

2010年9月期 決算概況

## 損益計算書

単位：千円

	2010年9月	2009年9月	前年同期比
受入手数料	140,571	150,453	93.4%
(委託手数料)	58,516	88,495	66.1%
(募集等手数料)	63,086	48,750	129.4%
(その他手数料)	18,968	13,206	143.6%
トレーディング損益	223,939	589,745	37.9%
金融収益	189,953	178,522	106.4%
その他の営業収益	159,241	153,806	103.5%
営業収益計	713,707	1,072,527	66.5%
金融費用	162,583	153,834	105.6%
純営業収益	551,124	918,693	59.9%
販管費	690,098	628,907	109.7%
営業損益	-138,974	289,785	
経常損益	-145,698	281,550	
特別損益	699,151	4,022	17,381.0%
税引前当期純損益	553,453	285,572	193.8%

## 2010年9月期決算概況

2010年度上半期は、欧州財政不安や円高の進行、株式市場の出来高低迷等の悪材料が重なり、証券会社を取り巻く環境は厳しいものとなりました。

そのような中において当社は積極的な営業展開を続けておりますが、2010年9月期は、株式市場の低迷が打撃となり、株式委託手数料収入、トレーディング収益が大幅に減少しました。それ以外の収入は、この厳しい環境下でも前年同期比プラスに推移したものの、両部門の大きな減収を補うことはできず、純営業収益は前年同期比約4割減の大幅な減収となりました。

販売管理費は、収益の低迷により取引関係費や事務委託費が減少したものの、保守的な観点から顧客とのトラブル等に備えるための貸倒引当金1億4,049万円を計上したことにより前年同期比で増加しました。

結果として、営業損失は1億3,897万円、経常損失は1億4,569万円となりました。貸倒引当金計上の影響を取り除けば、ほぼ収支トントンで上半期を乗り越えたこととなります。

なお、当社は、本年6月にユニマツ証券株式会社を完全子会社化しましたが、9月に同社を吸収合併したことに伴い合併差益が6億7,642万円生じております。結果として、税引前当期純利益は、前年同期比193.8%と大幅な増益となりました。

## 当面する課題

先述の通り、当社はユニマツ証券株式会社を本年9月に吸収合併しました。ユニマツ証券から引き継いだ業務はFX事業のみで、継続雇用の見込みがある役社員も7名と少人数ではありますが、FX事業の関連システム費用や当社の旧本社の維持費用等が膨らみ、業務運営コストが大きく上昇しております。

当面、株式市場の回復は見込めず、競争過多なFX事業における収益性回復も見通しが立てづらいことから、徹底したコストの削減を行い、厳しい事業環境に耐えうる体質を作ることが喫緊の課題と考えております。

また、合併後の業務フローに瑕疵がないか、コンプライアンス体制に問題がないか等、内部管理体制の見直し、強化も必要となります。合併後の乱気流から一刻も早く抜け出し、安定軌道に乗せることを重要課題としております。

## 貸借対照表

単位：百万円

資産の部		負債の部	
<b>流動資産</b>	<b>29,144</b>	<b>流動負債</b>	<b>26,616</b>
現金及び預金	2,368	トレーディング商品	2,933
預託金	891	信用取引負債	6,710
トレーディング商品	2,961	預り金	445
信用取引資産	7,776	受入保証金	6,189
短期差入保証金	7,566	短期借入金	9,770
短期貸付金	5,539	未払金	255
未収入金	2,025	その他流動負債	312
その他の流動資産	113	<b>固定負債</b>	<b>1,523</b>
貸倒引当金	△99	特別法上の準備金	56
<b>固定資産</b>	<b>2,537</b>	<b>負債合計</b>	<b>28,196</b>
有形固定資産	591	<b>純資産の部</b>	
無形固定資産	100	資本金	500
投資その他の資産	2,002	利益剰余金	2,986
貸倒引当金	△156	<b>純資産合計</b>	<b>3,486</b>
<b>資産合計</b>	<b>31,682</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>31,682</b>

## 2010年9月期財務概況

本年9月のユニマット証券株式会社との合併に伴う主な財務上の影響についてご説明します。

まず、資産の部についてですが、流動資産のうち、短期差入保証金が75億66百万円（前年同期比437.8%）に増加しておりますが、これは主にユニマット証券が行っていたFX事業を承継したことに伴い顧客からの受入保証金を取引所に差入れることにより増えたものです。また、固定資産のうち、有形固定資産が5億91百万円（前年同期比133.5%）に増えておりますが、これは合併に伴いユニマット証券が保有していた不動産を引き継いだことによりです。投資その他資産が20億2百万円（前年同期比260.8%）と増えておりますが、これはユニマット証券が保有していた東京証券取引所株式（時価約10億円）と日本相互証券株式（時価約1.5億円）を引き継いだための増加となります。負債の部では、流動負債のうち、受入保証金が61億89百万円（前年同期比789.9%）と増えておりますが、上記FX事業の承継に伴うものでございます。純資産の部は、ユニマット証券を吸収合併したことに伴う逆のれん代の計上等により、株主資本が34億86百万円（前年同期比120.3%）に増加しております。なお、当社の通常の営業活動に伴う財務状況の変化については、2009年9月期に比べ特筆すべき大きな変化はございませんが、顧客とのトラブル等に備えるため、流動資産において貸倒引当金99百万円（前年同期比2958.0%）、固定資産において貸倒引当金1億56百万円（前年同期比245.1%）を計上しております。

## 当面する課題

証券市場を取り巻く環境は厳しさを増しており、好転の兆しは見えてきておりません。当社としましては、多額の逆のれん代が計上できたことを損失のクッションとして考え、より保守的な観点から資産内容を見直し、財務内容を強化する必要があると考えております。

具体的には、2011年3月期までに、旧本社ビルの減損、FX事業で使っているソフトウェア・ハードウェアの除却を、計約2.5億円を行う予定です。

また、ユニマット証券株式会社を買収するために膨らんでいた劣後債残高を2011年4月中に5億円程度減少させ、負債の圧縮を行う予定です。

## 当社の業務に関して

当社の営業部門は、以下の事業部門によって構成されております。

- ・営業本部 … 個人投資家、法人投資家向けに金融商品の販売、株式等の取次、資産運用等に関するアドバイス業務他を行っております。
- ・投資銀行本部 … 有価証券担保融資、病院等向け貸金業、ファクタリングの他、M&Aアドバイザリー業務やTOB代理人業務等を行っております。自己資金による中長期投資も行います。
- ・FX事業本部 … 東京金融取引所が行う「くりっく365」（為替証拠金取引）をオンライン取引中心に行っております。
- ・ディーリング本部 … 短期売買を専門とする部門とマーケットニュートラル戦略による中長期的な運用を行う部門の2部門で、日本株による自己資金の運用を行っております。

各部門がお客様のニーズに応えるよう幅広い業務を行っているため、業務分散による業績の安定化が図れます。

また、収益の質の側面から考えると、以下のような分類が可能になります。

- ・市場関連収益 … 株式やFXの委託手数料等、主に取次業務から生じる手数料収入です。反復継続的な取引を見込める半面、顧客獲得競争が激しく、相場変動による影響を受けやすい面があります。
- ・スポット収益 … M&A等の各種アドバイス・フィー等、専門的かつテラー・メイドのサービスで高い収益率が見込める半面、クロージングまでの期間が長く、ディールが成立しない可能性もあり、経常的・安定的な収入を見込みづらいう性質があります。
- ・安定収益 … 貸金業の金利収入、ファクタリングの手数料収入、信用取引の金融収支、投資信託の代行手数料収入等、定期的安定的な収益が見込めますが、ストック型のビジネスで、資産の積み増しを地道に続ける必要がある上、バランスシートの制約を受けます。また、与信業務は信用リスクを抱えています。
- ・自己資金運用収益 … ディーリングやファンドへの自己投資による収益です。見込みが当たれば大きな収益が獲得できますが、常に損失が生じるリスクを抱えている上、財務的な制約もあります。

当社は業務の分散だけでなく、収益の質やリスクの分散も図り業績の一層の安定を追求しております。